

水道公論 海外水ビジネスの眼

「ニューヨークの水道事情・その2」

仕事の関係でニューヨークにはたびたび出張していたが、正式に赴任したのは1998年。最初の3か月間はマンハッタンの管理人付きのアパートで、光熱費はすべて家賃に含まれ、電気も水道も使い放題であった。その後家族と暮らすためにNY郊外に家を探し、最高の物件があったので不動産屋と一諸に家主に契約挨拶に行ったところ、職業は聞かれ国際機関(国連)勤務と答えると、家主が厳しい顔で「お前とは契約できない」と即座に断られた。

その理由は、国連には外交特権があり、(途上国やアジア人外交官に)不払いの人が多く、過去に被害にあったらしい。不動産屋の再度の提案で郊外に借りた家はテラス付きタウンハウスで快適だった。床暖房で窓は二重ガラス、水道水もそのまま飲めた。

郊外の家に移ったある日、家の玄関前にポリ瓶と書類が入ったビニール袋が置いてあった。恐々と開けてみたら水道局からのお知らせとサンプル採取ポリ瓶(2リットル)が。書類には「あなたの家に給水されている水道水質の検査依頼です、水道局は通常の水質検査(PH,濁度、色度、残留塩素など)を行います、また特に希望(鉛濃度、放射能測定、バクテリアの存在等)があれば、書き込んでください。(ニューヨークでは地下室の放射能(ラドン濃度)を測定・確認することが、家を買う時や2年ごとに義務づけられている。)試水をサンプリングしたらすぐに水道局に連絡すること、さらに不明点は水道局のホームページを見る事」が明記されていた。

ホームページを見ると、まず言語の選択項目がある。英語、スペイン語、中国語、ロシア語、ベンガル語(インド・バングラデシュ)、ハイチ語(カリブ海諸国)、韓国語の7か国語で居住者の多い順らしい。残念ながら日本語は無い。その内容も面白い、仮に水道水に鉛が検出された場合、ニューヨーク市(NYC)健康局の血液検査への誘導や、仮に水道局の対応に問題があった時のクレーム申告先(無料電話番号)まで明記されている。ニューヨークは「人種のるつぼ」と言われている由縁でもあろう。

ニューヨーク州の水道には基本的に塩素とフッ素が注入されているが、フッ素注入の正当性が長々と述べられている。米国の公衆衛生保健局の調査(1962年から現在まで)報告書では1リットル当たり0.7ミリグラム・フッ素注入は、すべての年代に効果的であり、とくに虫歯予防(入れない場合に比べ虫歯率25%削減)に卓越した効果をもたらしている。特に乳幼児・低学年の生徒が通う施設では、フッ素を入れることにより、フッ素注入なき場合に比較し2.25倍の虫歯防止が出来ている。これは市にとっても市民にとっても医療費の削減に貢献している。

さらに誉め言葉が続く、「70年間続くフッ素を注入しているコミュニティ CWF (Community of water fluoridation)の行動は20世紀に施された10大・医療健康達成項目のトップである」と。

浄水処理についても触れてみたい。NY市の水道水源はNY市から約125マイル北方の①キャツキル水系（94～97%）であり、残りは②クロトン水系（の3～6%）から取水している。取水後世界で最大級の紫外線殺菌装置（クリプト対策）で処理され、塩素およびフッ素を注した後、3本の地下送水管でNY市内に給水されている。クロトン水系からの取水は、凝集・浮上・ろ過設備を通り給水されている。浄水能力は、848万m³/日である。現在NYCが抱えている問題は1900年代に敷設された導水管の老朽化である。更新費用は年間1億ドル（110億円）を超えている。水道の歴史が長い先進国は同じ悩みを抱えている。（KY）